

W0. イントロダクション

W0.1

(W0.1) 貴社の概要および紹介文を記入してください。

当社グループは、「塗料事業で培った技術と人財を最大限に生かした製品・サービスを通じて、人と社会の発展を支える」ことを企業理念における使命目的としております。当社グループのコアビジネスである塗料事業を通じて、顧客の満足を得ることが当社グループの存立基盤であり、その実現によって「利益」がもたらされることによる企業価値の向上こそが、株主をはじめとする取引先、従業員、地域社会等、当社グループのステークホルダーに貢献しうるものであると考えております。

当社は、1918年の創業以来、各種塗料の分野において、日本の塗料メーカーでは最も先進的なメーカーとして成長し、今日では世界の代表的な塗料メーカーの地位を確立するに至っています。当社グループ製品群は、「保護」「美観」「特別な機能の付与」「環境への対応」という塗料の重要な役割を果たすことによって、幅広い分野において高い評価と信頼を得ています。また、当社独自の先進的な研究開発力をコアに、生産・物流・販売活動をグローバルに展開することにより、世界中のお客様に比類のない顧客サービスを提供しています。当社が事業展開を行う海外の主要市場は、インド、中国及アセアンからなるアジア、アフリカ、欧州、主に米州からなるその他です。日本及び海外市場においては、自動車分野、自動車補修分野、工業分野、建築分野、船舶鉄構分野及びその他分野での塗料の製造販売及びサービスの提供を行っています。2020年度の当社グループ全体の売上高は3,646億円でした。この売上高の地域セグメント構成比は、日本39%、インド20%、欧州18%、アジア14%、アフリカ8%、その他1%でした。同年度売上高の分野別構成比は、自動車分野25%、工業分野28%、汎用分野36%、船舶・その他11%でした。

W-CH0.1a

(W-CH0.1a) 貴社が従事しているのは、化学品セクターのどの活動ですか。
特殊有機化学品

W0.2

(W0.2) データの報告年の開始日と終了日を示してください。

	開始日	終了日
報告年	2020年4月1日	2021年3月31日

W0.3

(W0.3) データを提供する対象の国/地域を選択してください。
日本

W0.4

(W0.4) 回答全体を通じて財務情報の開示に使用する通貨を選択してください。
日本円(JPY)

W0.5

(W0.5) 貴社の事業への水の影響の報告にあたり、対象となる企業、事業体、グループの報告バウンダリ(境界)として最も当てはまるものを選択してください。
業務管理下にある企業、事業体、またはグループ

W0.6

(W0.6) 上記報告バウンダリ(境界)の中で、本情報開示から除外される地域、施設、水に関する側面、その他の事項はありますか。
はい

W0.6a

(W0.6a) 除外されるものについて説明してください。

除外対象	説明してください
生産事業以外の事業拠点を除外しています。	当社事業における水資源利用は、生産事業所が圧倒的に多い。他の施設では、生活用水を使用しているため、対象から除外している。

W1. 現状

W1.1

(W1.1) 貴社の事業の成功には、貴社にとって水質と水量はどの程度重要ですか。(現在および将来の)重要度をお答えください。

	直接利用の重要度評価	間接利用の重要度評価	説明してください
十分な量の良質の淡水を利用できること	操業に不可欠である	操業に不可欠である	直接利用、水性塗料の原料のため不可欠です。間接利用、製造工程で冷却に利用するため不可欠です。
十分な量のリサイクル水、汽水、随伴水を利用できること	重要である	重要である	主に洗浄水で利用している。コスト、廃位水を減らすという観点。淡水の使用量を抑える。

W1.2

(W1.2) 水に関する以下の側面について、貴社の事業全体でどの程度の割合を定期的に測定・モニタリングしていますか。

	操業地/施設/事業の比率(%)	説明してください
取水 - 総取水量	100%	水道水と工業用水は、外部から購入しており、購入量について、毎月、施設にある使用量メーターにて確認している。地下水については、汲み上げ量を、毎月、施設にある吸水量メーターにて確認している。
取水量 - 水源別の量	100%	水道水と工業用水は、外部から購入しており、購入量について、毎月、施設にある使用量メーターにて確認している。地下水については、汲み上げ量を、毎月、施設にある吸水量メーターにて確認している。
貴社の金属・鉱業セクター活動に関連した混入水・総量 [金属・鉱業セクターのみ]	<Not Applicable>	<Not Applicable>
貴社の石油・天然ガス事業活動に関連した随伴水・総量 [石油・ガスセクターのみ]	<Not Applicable>	<Not Applicable>
取水の水質	76-99	水道水や工業用水は、供給元がモニターをしている。地下水については、モニターを行っていない。
排水量 - 総量	1-25	一部事業所で排水量を把握している。
排水量 - 放流先別の量	1-25	一部事業所で排水量を把握している。
排水量 - 処理方法別の量	1-25	一部事業所で排水量を把握している。
排水水質 - 標準的排水基準別	1-25	一部事業所で排水量を把握している。
排水水質 - 温度	モニタリングなし	河川放水の場合、PH等は検査しているが、事業内容から温水を直接排水することはないので、温度測定の必要がない。
水消費量 - 総消費量	100%	生産で原料に使用するものはすべて把握している。月次ベースでモニターしている。
リサイクル水/再利用水	モニタリングなし	洗浄水に随時使用しているが、使用量については確認ができない。
完全に管理された上下水道・衛生 (WASH) サービスを全従業員に提供	100%	供給元が品質保証をしている上水を提供しており、モニターも供給元が定期的に行っている。

W1.2b

(W1.2b) 貴社の事業全体で、取水、排水、消費された水それぞれの総量をお答えください。また、それらの量は前報告年と比較してどうでしたか。

	量 (メガリットル/年)	前報告年との比較	説明してください
総取水量	550	ほぼ同じ	特に対策を進めていないので、昨年並み
総排水量	521	少ない	総取水量から、総消費量を控除して計算。
総消費量	29	測定初年度	原材料として使用する水の量が計測できるようになったため。

W1.2d

(W1.2d) ワステレス下にある地域から取水しているか否かを示し、その割合を記入してください。

	取水はワステレス下にある地域からのものです	ワステレス下にある地域からの取水の割合	前報告年との比較	特定に使用したツール	説明してください
行 1	いいえ	<Not Applicable>	<Not Applicable>	世界資源研究所(WRI)が発表したアキダクト (AQUEDUCT)	今回の回答の対象が日本の拠点であり、水資源は十分に確保されている。

W1.2h

(W1.2h) 水源別の総取水量を記入してください。

	事業への関連性	量 (メガリットル/年)	前報告年との比較	説明してください
淡水の地表水(雨水、湿地帯の水、河川、湖水を含む)	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	淡水の地表水からの取水はおこなっていません。
汽水の地表水/海水	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	汽水の地表水や海水からの取水はおこなっていません。
地下水 - 再生可能	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	再生可能な地下水からの取水はおこなっていません。
地下水 - 非再生可能	関連する	300	ほぼ同じ	自治体が設定している汲み上げ制限内で地下水をくみ上げている。
随伴水/混入水	関連するが量は不明	<Not Applicable>	<Not Applicable>	随伴水・混入水からの取水はおこなっていません。
第三者の水源	関連する	250	ほぼ同じ	第三者からの取水量をカウントできるようになった。

W1.2i

(W1.2i) 放流先別の総排水量をお答えください。

	事業への関連性	量 (メガリットル/年)	前報告年との比較	説明してください
淡水の地表水	関連するが量は不明	<Not Applicable>	<Not Applicable>	一部河川への排水をしているが、排水量についてはカウントしていない。
汽水の地表水/海水	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	汽水への排水はおこなっていません。
地下水	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	地下水への排水はおこなっていません。
第三者の放流先	関連するが量は不明	<Not Applicable>	<Not Applicable>	下水への排水をしているが、排水量はカウントしていない。

W1.2j

(W1.2j) 貴社の直接操業内で、貴社が排水を処理するレベルのうち、最高レベルの処理を示してください。

	排水する処理レベルの事業への関連性	量 (メガリットル/年)	前報告年との処理済み量の比較	この量が適用される操業地/施設/操業の割合 (%)	説明してください
三次処理	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	三次処理後に排水は行っていない。
二次処理	関連するが量は不明	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	二次処理後の排水を標準的にしている。
一次処理のみ	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	一次処理のみで排水は行っていない。
処理せずに自然環境に排水	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	処理せずに自然環境に排水は行っていない。
処理せずに第三者に排水	関連性なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	処理せずに第三者に排水は行っていない。
その他	関連するが量は不明	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	2次処理後に一部、第三者へ排水を行っている。

W-CH1.3

(W-CH1.3) 貴社では、化学品セクターにおける事業活動の水原単位を測定していますか？

はい

W-CH1.3a

(W-CH1.3a) 生産重量/数量でみた貴社の上位5製品について、化学品セクターでの貴社の活動に関連する以下の水原単位情報をご提供ください。

製品の種類

特殊有機化学品

製品名

自動車用電着塗料

水原単位の値(m3)

分子：水に関する側面

総水消費量

分母

トン

前報告年との比較

Please select

説明してください

日本における生産拠点の原単位のデータになります。

W1.4

(W1.4) 水関連問題について、貴社のバリューチェーン上で協働していますか。
はい、顧客、またはその他のバリューチェーン・パートナーと

W1.4c

(W1.4c) 顧客またはバリューチェーン上の他のパートナーとのエンゲージメントについて、貴社はどのような根拠と戦略でその優先順位付けを行っていますか？

水の使用が最も多い、顧客の塗装工程での、水消費負荷削減について、お客様と議論して、優先順位付けを行っている。

W2. 事業への影響

W2.1

(W2.1) 貴社はこれまでに、水関連で有害な影響を被ったことはありますか。
いいえ

W2.2

(W2.2) 貴社は報告年に、水関連の規制違反を理由として罰金、法的命令、その他のペナルティを科されましたか。
いいえ

W3. 手順

W-CH3.1

(W-CH3.1) 貴社では、化学品セクターでの事業活動に関連し、水の生態系や人間の健康に有害となりうる潜在的水質汚染物質を、どのように特定、分類していますか。

当社の事業活動において水の生態系や人間の健康に有害となりうる潜在的水質汚染とは、製造プロセス（直接操業）において発生する排水などではなく、製品である塗料が、我々が予期せぬ格好で流出したり、不適切な廃棄をされることによって発生すると考えています。

よって、汚染物質は塗料の成分として含まれる有機溶剤や重金属などが該当し、これらは製品の配合設計の段階で特定・分類されています。

従って、これら汚染物質の個別管理を行うのではなく、製品自体が水質汚染を最小化、発生させないように開発され、適切に製造・保存され、また、顧客などへ配送、廃棄されるかがリスク管理の切り口となります。

具体的には、開発では、塗料の水性化や鉛を使用しない塗料の開発など、汚染物質を使用しない配合設計化を推進しています。製造・保存においては、製品の流出を起さぬよう、また万が一発生した場合も、河川や土中へ流れ込まないような措置を講じています。配送・廃棄においても、万が一の流出時などに備え、製品の危険有害性や取り扱い上の注意など、安全に取り扱っていただくための情報提供などを行っています。

水質汚濁防止法、下水道に関する地方自治体の条例に従い、適切に処理して排水している。

W-CH3.1a

(W-CH3.1a) 潜在的水質汚染物質が水の生態系や人間の健康に及ぼす悪影響を、貴社ではどのように最小限に抑えているかを説明してください。化学品セクターでの事業活動に関連する潜在的水質汚染物質を、最大10種類まで報告してください。

潜在的水質汚染物質	バリューチェーン上の段階	水質汚染物質と潜在的影響の詳細	管理手続き	説明してください
有機溶剤、重金属	直接操業 サプライチェーン 流通ネットワーク 製品の使用	製品の予期せぬ流出や適正な処理をしないことによる水質汚染	廃液水質基準の順守 流出、浸出、漏出の防止策 有害性の低い代替製品について研究開発 その他、具体的にお答えください（運搬時の流出事故対応ガイドランスの設定）	潜在的影響で最も懸念されるのは、流出によるもの。製造拠点における流出防止対策を進めている。具体的には、マネジメント層が同行して、ISO14001を遵守した診断や監査を適宜行っている。流出事故の発生件数と工場外への流出の有無をチェックしている。河川への流出は起こしていない。

W3.3

(W3.3) 貴社では水関連のリスクの評価を実施していますか？

はい、水関連のリスクを評価しています

W3.3a

(W3.3a) 水関連のリスクの特定と評価の手続きとして最も当てはまるものを選択してください。

直接操業

対象範囲

一部

リスク評価手順

環境リスク評価で水リスクを評価します

評価の頻度

年1回

どの程度の将来のリスクまで考慮しているか

1年以内

利用しているツールと手法の種類

国際的方法

利用しているツールと手法

環境影響評価

コメント

日本の生産拠点においてです。

サプライチェーン

対象範囲

なし

リスク評価手順

<Not Applicable>

評価の頻度

<Not Applicable>

どの程度の将来のリスクまで考慮しているか

<Not Applicable>

利用しているツールと手法の種類

<Not Applicable>

利用しているツールと手法

<Not Applicable>

コメント

バリューチェーン上のその他の段階

対象範囲

一部

リスク評価手順

その他、具体的にお答えください(配送時の漏洩によるリスクの低減を目的として、事故発生時の対処策について、取り決めている。)

評価の頻度

特定されていない

どの程度の将来のリスクまで考慮しているか

不明

利用しているツールと手法の種類

その他

利用しているツールと手法

社内的な方法

コメント

W3.3b

W3.3b) 貴社の水関連のリスク評価では、全体的状況に関わる以下のどの問題が考慮されていますか。

	関連性および組み入れ	説明してください
河川流域/集水地における取水可能な水資源量	関連性がない。理由の説明	河川流域/集水地における取水可能な水資源量については、自治体が管理しており、当社はその指導に従っている。
河川流域/集水地における水質	関連性がない。理由の説明	河川流域/集水地における水質については、自治体が管理しており、当社はその指導に従っている。
河川流域/集水地における水資源に関連したステークホルダー間の対立	関連性がない。理由の説明	河川流域/集水地における水資源に関連したステークホルダー間の対立については、自治体が管理しており、当社はその指導に従っている。
主要商品/原材料に対して水が持つ意味	関連性があり、常に評価に含めている	製造に使用する水の品質と供給が安定しないと、製品の品質が確保できないから。
水関連の規制枠組み	関連性があり、常に評価に含めている	国内の廃水規制に準拠するため。
生態系および動植物生息環境の状態	関連性がない。理由の説明	生態系及び動植物生息環境の状態については、自治体が管理しており、当社はその指導に従っている。
全従業員が、完全に管理された上下水道・衛生（WASH）サービスを利用できること	関連性があり、常に評価に含めている	公共サービスを利用し、安全な水を確保している。
全体的状況に関わるその他の問題(具体的にお答えください)	考慮していない	

W3.3c

W3.3c) 貴社の水関連のリスク評価では、以下のどのステークホルダーが考慮されていますか？

	関連性および組み入れ	説明してください
顧客	関連性があり、常に評価に含めている	製品品質確保のため、製品に使用する水の品質と供給を評価。顧客側で使用する水資源の使用を節約するための製品開発を進めている。
従業員	関連性があり、常に評価に含めている	従業員の健康安全確保のため。
投資家	関連性があり、常に評価に含めている	企業のESG活動を評価し、投資判断を行う投資家が増えているため、関連性はあると認識し、当社の水資源利用、節水活動について開示しているところです。
地域社会	関連性があり、常に評価に含めている	塗料等の流出による地下水等への汚染がないように、管理しています。
NGO	関連性がない。理由の説明	日本において、水資源の利用や排水について、大多数の企業は各種法令順守をしており、そのような企業に対して、NGOから追加要求がないため。
河川流域/集水地におけるその他の水利用者	関連性があり、常に評価に含めている	塗料等の流出による河川等への汚染がないように、管理しています。また、水資源の利用については、自治体の指導に従っている。
規制機関	関連性があり、常に評価に含めている	自治体の関連規制に準拠している。
河川流域管理当局	関連性があり、常に評価に含めている	自治体の関連規制に準拠している。
地域レベルの法定の特殊利益集団	考慮していない	該当する集団はない。
サプライヤー	関連性があるが、評価に含めていない	サプライヤーとの対話について準備中である。
地域レベルの水道事業者	関連性があり、常に評価に含めている	自治体の関連規制に準拠している。
その他のステークホルダー(具体的にお答えください)	考慮していない	該当するステークホルダーはいない。

W3.3d

W3.3d) 貴社の直接操業およびバリューチェーンの他の段階における水関連のリスクの特定、評価、それへの対応に用いている、貴社のプロセスを具体的に説明してください。

生産拠点のある自治体が定める法令を順守（取水量、排水の性状管理）するとともに、ISO14001のような国際的方法により、評価対応している。

W4. リスクと機会

W4.1

W4.1) 貴社ではこれまで、事業に財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のある特有の水関連のリスクを特定したことがありますか。

はい、直接操業とバリューチェーンの他の段階の両方で

W4.1a

(W4.1a) 貴社では、事業に及ぶ財務または戦略面での重大な影響を、どのように定義していますか。

当社にとって重大なリスクとは、当社の短期的事業目標及び中長期的戦略的目標の達成を阻害するものである。当社は東京証券取引所に上場し、期初に売上や利益の年間の業績予想を開示している。重大なリスクが発生し、当社の売上予想が10%以上変動するか、利益予想が30%以上変動する見込みとなった場合、業績予想の修正をしなければならない。重大なリスクによる定量的な影響額とは、当社がそうした業績予想の修正をしなければならない額と考える。

直接操業においては、主に生産事業所における排水におけるリスクがありますが、これらは基本的に適切な処理をしたうえで排水処理を行っており、また、そのコストも業績面に与える影響は軽微であり、重大なリスクとなる可能性は極めて小さいものと考えています。

また、水を原料として使用する製品についても、製造時や出荷時の検査を実施して品質管理を行っているとともに、顧客供給後の使用時においても、水自体は塗装工程で蒸発し、原料成分としては塗膜に残存しないこともあり、与える影響は極めて小さいものと考えています。

一方で、製品などの保存において、不測の事態により流出などが発生し、水資源に悪影響を与える場合、その処理や対応費用の影響もありますが、むしろ、その事象が事業活動の停止や企業としての信用低下などを招き、財務または戦略面での重大な影響を及ぼす可能性があると考えており、これが最大のリスクになると考えています。

サプライチェーンにおいても、不測の事態や事故などにより、塗料の流出や不適切な廃棄などが発生し、水資源に悪影響を与える場合が考えられますが、これにおいても流出した製品などの損失よりも、発生後に適切な処理を行ったかどうかなどが重要であり、過失があった場合、企業としての信用低下などを招き、財務または戦略面での重大な影響を及ぼす可能性があると考えています。

なお、これらは事象規模や影響範囲などにより財務面でのインパクトは異なることが予想され、その大きさを予め想定することは困難です。

2020年度において、重大リスクに該当した例はありません。

W4.1b

(W4.1b) 貴社の施設のうち、事業に財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のある水関連リスクをもつ施設は、合計でいくつありますか。またそれは貴社の施設全体のどの程度の割合を占めますか。

	水リスクのある施設の総数	全施設に対する比率(%)	コメント
行 1		1%未満	国内製造拠点において、取水に関して重大なリスクのある拠点は無い。また、排水については、拠点のある自治体の規制に従い、管理を行っているため、重大リスクをもたらし拠点は無いと考える。

W4.1c

(W4.1c) 河川流域別に、貴社の事業に重大な財務または戦略上の影響を及ぼす可能性のある水関連のリスクにさらされている施設の数と割合はいくらですか。また、これらの施設に関連する、事業への潜在的影響とはどのようなものでしょうか。

国/地域および河川流域

日本	その他、具体的にお答えください(境川)
----	---------------------

水リスクのある施設の数

0

全施設に対する比率(%)

1%未満

これら施設に関連する金属および鉱業活動の生産額

<Not Applicable>

貴社の年間発電総量に対し、これらの施設の潜在的影響下にある発電量の比率(%)

<Not Applicable>

貴社の石油・天然ガス総生産量(世界全体)に対し、これらの施設の潜在的影響下にある生産量の比率(%)

<Not Applicable>

貴社の世界全体での総収入に対し、潜在的影響下にあるものの比率(%)

1%未満

コメント

W4.2

(W4.2) 貴社の直接操業において、事業に対し財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性があるとして特定されたリスクと、それへの貴社の対応について、具体的にお答えください。

国/地域および河川流域

日本	その他、具体的にお答えください(境川)
----	---------------------

リスクの種類と主なリスク要因

物理的要因	汚染事故
-------	------

主な潜在的影響

事業許可の喪失

企業固有の内容の説明

重大な事故等により、拠点のある自治体から操業停止命令等を受ける可能性がある。

期間

6年超

潜在的影響の程度

低い

可能性

可能性が並外れて低い

財務上の潜在的影響額をご回答いただくことは可能ですか？

いいえ、このデータはありません

財務上の潜在的影響額 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最小(通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最大(通貨)

<Not Applicable>

財務上の影響についての説明

発生する事象により影響度は異なるものと考えます。

リスクへの主な対応

汚染対策および抑制対策を向上

対応の説明

定期的なモニタリング、不測の事態が起こった際の回避措置を施すこと、これらを経営層も参加する専門組織が監督評価して、改善をはかること。

対応の費用

0

対応の費用についての説明

当該リスクへの対応費用については、環境損傷コスト（2019年度及び2020年度はゼロ）に含まれています。

W4.2a

(W4.2a) 貴社のバリューチェーン(直接操業を超える)において、事業に対し財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性があるとして特定されたリスクと、それへの貴社の対応について、具体的にお答えください。

国/地域および河川流域

日本	その他、具体的にお答えください(境川)
----	---------------------

バリューチェーンの段階

サプライチェーン

リスクの種類と主なリスク要因

規制	その他、具体的にお答えください(環境汚染により、自治体からの操業停止等の処分を受けるリスク)
----	--

主な潜在的影響

罰金、違約金、または施行令

企業固有の内容の説明

サプライチェーンにおいても、不測の事態や事故などにより、塗料が流出や不適切な廃棄などが発生し、水資源に悪影響を与える場合が考えられますが、これにおいても流出した製品などの損失よりも、発生後に適切な処理を行ったかどうかなどが重要であり、過失があった場合、自治体から操業停止等の処分を受けるリスクがあります。

期間

6年超

潜在的影響の程度

低い

可能性

可能性が並外れて低い

財務上の潜在的影響額をご回答いただくことは可能ですか？

いいえ、このデータはありません

財務上の潜在的影響額(通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最小(通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最大(通貨)

<Not Applicable>

財務上の影響についての説明

事業規模や影響範囲などにより財務面でのインパクトは異なることが予想され、その大きさを予め想定することは困難です。

リスクへの主な対応

下流	汚染対策および抑制対策を向上
----	----------------

対応の説明

当社製品の輸送業者と協力して、運搬時の製品の漏洩リスク抑制対策を向上させる。

対応の費用

100000

対応の費用についての説明

運搬業者への指導・監査を行うために、担当者が出張する等の費用になるが、金額は少額であり、当社の業績への影響はほとんどない。

W4.3

(W4.3) 貴社ではこれまで、事業に財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のある水関連機会を特定したことがありますか。

いいえ

W4.3b

(W4.3b) 貴社には水関連の機会がないと考えるのはなぜですか。

	主な理由	説明してください
行1	まだ評価していない	日本は、そもそも未資源が豊富な国であるため、水関連の機会はほとんどないと認識しています。

W6. ガバナンス

W6.1

(W6.1) 貴社には水に関する企業方針がありますか。

いいえ、しかし今後2年以内に策定予定です

W6.2

(W6.2) 貴社内では、水関連問題について取締役会レベルの監督が実施されていますか。

いいえ

W6.2c

(W6.2c) 水関連問題に対して取締役会レベルの監督がないのはなぜですか。また、今後この状況を変える予定はありますか。

	主な理由	今後2年以内に水関連問題に対する取締役会レベルの監督を導入予定	説明してください
行1	水関連問題に対しては、水を実際に使用したり、排水したり、また当社製品を製造拠点から顧客に運んだりする場合に、リスクが発生する可能性があるため、今まで、当社の製造拠点が中心となって、対応してきた。それにより、取締役会レベルの監督がなかった。	はい	サステナビリティ委員会が中心となって、水関連問題に関するガイドラインを策定し、今後2年以内に取締役会の承認を得る予定。

W6.3

(W6.3) 水関連問題に責任を負う最高管理レベルの職位または委員会を記入してください(個人の名前は含めないでください)。

職位または委員会

施設長

責任

水関連のリスクと機会の評価

水関連問題に関して取締役会に報告する頻度

重要な事案が生じたとき

説明してください

定期的な報告はないものの、水関連問題に関して重要な事案が生じた際に、取締役会に報告する。

W6.4

(W6.4) 水関連問題の管理に関して、経営幹部レベル役員または取締役にインセンティブを付与していますか。

	水関連問題の管理に対してインセンティブを付与します	コメント
行1	いいえ、今後2年以内に導入予定もない	

W6.5

(W6.5) 貴社では、水に関する公共政策に直接的または間接的に影響を及ぼしうる活動に、以下のいずれかを通じて関与していますか。

いいえ

W6.6

(W6.6) 貴社は、水関連のリスクへの対応に関する情報を直近の財務報告書に含めましたか。

いいえ、しかし今後2年以内にそうする予定です

W7. 事業戦略

W7.1

(W7.1) 貴社の長期的・戦略的事業計画のいずれかの側面に水関連問題が組み込まれていますか。もしそうであれば、どのように組み込まれていますか。

	水関連の問題が組み込まれていますか。	長期的な対象期間(年)	説明してください
長期的な事業目的	いいえ、水関連の問題のレビューをまだ行っていませんが、今後2年以内に実施予定です	<Not Applicable>	水関連問題に対しては、水を実際に使用したり、排水したり、また当社製品を製造拠点から顧客に運んだりする場合に、リスクが発生する可能性があるため、今まで、当社の製造拠点を中心となって、対応してきた。これにより、全社的に水関連問題について評価は行っていなかった。今後2年以内に全社的な水関連問題のレビューを実施し、長期事業目的を策定したい。
長期的目標達成のための戦略	いいえ、水関連の問題のレビューをまだ行っていませんが、今後2年以内に実施予定です	<Not Applicable>	水関連問題に対しては、水を実際に使用したり、排水したり、また当社製品を製造拠点から顧客に運んだりする場合に、リスクが発生する可能性があるため、今まで、当社の製造拠点を中心となって、対応してきた。これにより、全社的に水関連問題について評価は行わず、長期目標達成のための戦略も策定していなかった。今後2年以内に長期的な目標達成のための戦略を策定したい。
財務計画	いいえ、水関連の問題のレビューを行ったことはなく、予定もありません	<Not Applicable>	水関連問題に対しては、水を実際に使用したり、排水したり、また当社製品を製造拠点から顧客に運んだりする場合に、リスクが発生する可能性があるため、今まで、当社の製造拠点を中心となって、対応してきた。これにより、全社的に水関連問題について評価は行わず、長期目標やその目標達成のための戦略も策定してこなかった。今後2年以内に長期目標や目標達成のための戦略の策定を行う予定ではある。財務計画の策定については、その後の課題と認識している。

W7.2

(W7.2) 報告年における貴社の水関連の設備投資費(CAPEX)と操業費(OPEX)の傾向と、次報告年に予想される傾向をお答えください。

行1

水関連の設備投資費CAPEX(+/- %)

次報告年の設備投資費予想(+/- %)

水関連の操業費(+/- %)

次報告年の操業費(OPEX)(+/- %)

説明してください

W7.3

(W7.3) 貴社では、気候関連シナリオ分析で得られる情報を事業戦略に利用していますか。

	気候関連シナリオ分析の利用	コメント
行1	いいえ、しかし今後2年以内に実施予定です	

W7.4

(W7.4) 貴社では、インターナルウォータープライシングを実施していますか。

行1

貴社では、水に対してインターナルウォータープライスを実施していますか。

いいえ、今後2年以内に実施する予定もありません

説明してください

現時点で、日本において、ウォータープライシングの導入について、行政から方針が示されていないため、企業単体での実施は困難な状況。

W8. 目標

W8.1

(W8.1) 水関連の目標や目的を、どのように設定・モニタリングしているかについて説明してください。

	定量的目標(target)およびまたは定性的目標(goal)のレベル	企業レベルでのモニタリング	定量的目標およびまたは定性的目標の設定とモニタリングの方法
行1	河川流域特有の定量的目標(target)およびまたは定性的目標(goal)	定性的目標(goal)を企業レベルでモニタリングしている	取水の定量目標については特に設定はしていないが、できる限り、水資源の節約をするように努力している。排水については、行政が決めた基準がある事業所についてはその基準を遵守しており、その他の事業所については自主基準を設定し、それを遵守している。取水量のモニターについては、各事業所において、行政が設置した水量計等で行っている。排水については、各事業所において水質を定期的に検査している。

W8.1b

(W8.1b) 企業レベルでモニタリングし、進捗が見られる水関連定性的目標を具体的にお答えください。

定性的目標

その他、具体的にお答えください(法令、条件の順守)

レベル

操業地/施設

動機

その他、具体的にお答えください(法令順守)

定性的目標の詳細

取水については、取水量を制限量以内とする。排水については、行政が設定した基準があるところは、それを遵守しており、それ以外の事業所は自主基準を設定し、それを遵守している。

基準年

開始年

目標年

進捗

W9. 検証

W9.1

(W9.1) CDP情報開示で報告する(W5.1aの対象を除く)その他の水情報について、検証を実施していますか。
いいえ、現在はCDP情報開示で報告する他の水関連情報を検証していません

W10. 最終承認

W-FI

(W-FI) この欄に、貴社の回答に関連すると考えられる追加情報や背景事情を記入してください。この欄は任意で、採点されないことにご注意ください。

W10.1

(W10.1) このCDP水セキュリティ質問書への回答を最終承認者の詳細をお答えください。

	役職	職種
行1	取締役専務執行役員 経営推進部門長	取締役

W10.2

(W10.2) 影響およびリスク対応戦略に関して貴社が公的に開示したデータをCDPがCEO ウォーターマンドートのウォーターアクションハブに転送することに同意いただけるかどうかを示してください[W2.1a(影響への対応)、W4.2とW4.2a(影響への対応)のみに当てはまります]。
はい

回答を提出

どの言語で回答を提出しますか?

日本語

回答がどのようにCDPの手に取り扱われるべきかを確認してください

	提出します	公開または非公開の提出
回答を提出します	投資家	公開

以下をご確認ください

適用条件を読み、同意します